

公園緑地における魅力向上を目指して

(研究期間：平成29年度～)



都市研究部 都市防災研究室 主任研究官 影本 信明 (室長 博士(工学)) 竹谷 修一

(キーワード) 公園緑地、観光振興、魅力向上

1. はじめに

2016年(平成28年)3月「明日の日本を支える観光ビジョン」が発表され、「観光先進国になる」という目標のもと、観光を我が国の新たな基幹産業と捉え、政府一丸となつての取り組みが進んでいる。

一方、公園緑地は、観光において重要な観光資源であり、世界的に見ても観光地として人気を博している公園は数多い。しかし、我が国の公園緑地の知名度は世界のものと比較すると高いとはいえず、公園緑地の魅力を高め、観光振興に積極的に役立てていくことは非常に重要であると考えられる。

このため、国総研では、観光地として世界的に著名な公園を対象に、これら公園の観光資源としての特徴や、都市景観に与えている影響などを文献調査などで把握・整理し(事例研究)、これらを基に我が国の都市内の公園緑地の観光的活用方策の調査・研究を行っている。

2. 観光地として人気を博している公園の特徴

国際的に観光地として人気を博している公園を

「利用者の目線(インターネットの旅行クチコミサイトTrip Adviserによるランキングから抽出)」、「プロの目線(人気の高い観光ガイドブックLonely Planet等によるランキング等から抽出)」、「学術的視点(観光計画学、造園学等を専門とする学識者へのヒアリングにより抽出)」の3つの観点から37事例(海外公園26事例、インバウンド観光の推進のため海外の公園の比較対象となるような国内公園11事例)を抽出した。

そして、観光的魅力に加え、公園の面積や立地、施設構成等から判断される特徴をもとに分類を行い、7つの公園タイプに分類した(表1)。

3. 成果の活用予定

今後は、代表的な公園を選定し、各公園の観光的魅力や取り組み内容を詳細に調査するとともに、国内の公園緑地の利用の動向等を把握・整理し、事例集と留意事項としてとりまとめ情報提供を行っていく予定である。

表1 観光地として人気を博している公園のタイプ分類

公園のタイプ	特徴と該当公園例
【タイプ1】 広大な自然体験型公園	広大な面積の公園で、敷地の大部分を自然林等が占める公園。トレッキングやサイクリングなど、自然を満喫できるアクティビティが充実している。 【スタンレー・パーク、キングス・パーク&植物園】
【タイプ2】 広大な都会のオアシス	面積50ha程度以上の広大な公園。散策やサイクリング、ピクニック等、様々なアクティビティ、レクリエーションが楽しめる。 【セントラル・パーク、イギリス式庭園(エングリッシャーガルテン)、代々木公園など】
【タイプ3】 都心の小規模な休憩スポット	面積10ha程度のタイプ2と比較して小規模な公園。市街地に立地し、観光客だけでなく、ビジネスマンや市民の休憩スポットとなっている。 【ミレニアム・パーク、ブライアント・パーク、日比谷公園など】
【タイプ4】 遊歩道型公園	遊歩道が公園となっているもの。【ハイライン】
【タイプ5】 施設複合型公園	美術館や博物館、レジャー施設等の多様な施設が一体となって公園を形成しているもの。 【バルボア・パーク、サウスバンク・パークランド、上野公園など】
【タイプ6】 歴史的公園	昔の宮殿、庭園跡地等が公園として整備されたもの。 【リュクサンブール公園、セント・ジェームズ・パーク、兼六園など】
【タイプ7】 テーマ特化型公園(アート・植物園・メモリアル)	アート、植物園、メモリアル等の特定のテーマに特化した展示・鑑賞施設等を中心とする公園。 【グエル公園、シンガポール植物園、モエレ沼公園など】